

スポーツ・街のきずなの風景

山田 清志 ● 東海大学副学長



北海道札幌市南区

札幌は、一八六九年に蝦夷から北海道に改称された際に、その北海道開発の拠点として札幌本府が設置されたのが始まりである。南北に分ける防火帯としての大通りと創成川を基線とした碁盤の目状の町並みが整えられ、現在では、人口一九〇万人を超える大都市へと発展している。その札幌という地名の由来は、町を流れる豊平川のことをアイヌ語で「乾いた大きな川」を意味する「サツ・ポロ」と呼んでいたことから、それが転用されたという説が有力である。豊平川が乾いた大きな川と呼ばれたのは、乾季に極端に水量が少なくなる川だったためと言われている。

東海大学が、創立者松前重義が深く影響を受けた内村鑑三の学んだ札幌の地で教育活動を開始したのは、一九六四年の東海大学付属第四高校の開設に始まる。その第四高校の敷地内には内村鑑三記念碑があり、そこには「東海大学の創設は、東京柏木聖書研究会における私と内村鑑三先生との出会いに始まる。言い換えると内村先生の人格、その思想、そのほとばしる情熱が私に本学の建学を決意させたのである」と記されている。一九六七年には工学部の教養課程として東海大学札幌教養部が開設され、さらに一九八八年には独立

した四年制大学としての北海道東海大学に発展した。二〇〇八年には東海大学のもとに統合がなされ、現在は国際文化学部と生物学部による札幌キャンパスとして存在している。

●札幌オリンピック

その高校・大学とともに札幌市南区南沢にあるが、最寄りの地下鉄駅は真駒内である。二〇二〇年の東京オリンピック開催によってオリンピックへの関心が高まっている昨今であるが、一九七二年にアジアで最初の冬季オリンピックが開催されたのはここ札幌であり、その競技施設の中心が真駒内であった。開会式が行われたのは真駒内屋外競技場（現・セキスイハイムオープンスタジアム）であり、閉会式が行われたのは真駒内屋内競技場（同アイスアリーナ）であって、両施設とも現在も真駒内の地にあつてスポーツ施設として健在である。

今から四〇年前の札幌オリンピックの当時、筆者は札幌在住の高校生であったが、今でもそのときのことを鮮やかによみがえってくる。まず、オリンピックを契機に札幌が大きく変わったことである。タイヤで走る地下鉄や冬に困らない地下街など、現在の札幌の町並みはこの時期に始まったと言える。オリンピック



クの競技では、七〇メートル級ジャンプ（現在のノーマルヒル）で笠谷・今野・青地が金・銀・銅メダルと冬季オリンピックの表彰台を初めて独占したことである。冬季オリンピックでは、それまでのメダルが猪谷千春のアルペン回転銀メダルのみであったことを考えると大変な快挙であった。また、尻もちをついても愛くるしい笑顔でフィギュアスケート銅メダルをとったジャネット・リンが、選手村であった現在の真駒内五輪団地の一室の壁にLOVE & PEACEとサインをしたことも当時話題となった。残念ながらそのサインは消されてしまったのであるが、

札幌オリンピックの翌年にリンが再来日した際に再度書かれ、それは現在も一般住居の中に保存されている。

●ラベンダーキャンパス化計画

さて、もう一つの地域の話題として紹介できるのが、東海大学札幌キャンパスの敷地内にあるラベンダー畑である。実は日本におけるラベンダー栽培のルーツが札幌市南区南

沢であることはあまり知られていない。東海大学ではこの歴史を広く伝えるとともに、ラベンダーを通じて地域とのつながりを深めていくことを目的として二〇〇二年度よりラベンダーキャンパス化計画を実施してきた。約三六〇〇株のラベンダーは、正門脇の広場一面に広がっており、毎年七月にはその美しい色と香りで多くの来訪者を迎えている。今年で第七回を数える「南沢ラベンダーまつり」は、ラベンダーにちなんだアトラクションやコンサートなどを、町内会やまちづくり協議会と学生が一緒になって企画・運営しており、多くの人々に喜ばれている。

●地域と連携する大学の風景

北海道は日本のさまざまな地域からの人々によってコミュニティが形成されており、地縁と言われる伝統的な価値観の影響が少ない土地と言えよう。それがゆえに地域を束ねていくためのいろいろな仕掛けや努力が必要なのかもしれない。札幌市役所には市民まちづくり局が置かれ、「きっかけは町内会でした——家族のつぎに身近なきずな」というキャッチコピーで各町内会や自治会によるコミュニティの連携を図っている。東海大学も札幌市南区真駒内地域において、それらの連携の一翼を担い、またそれが街の風景の一部となることを望んできた。二〇一六年に東海大学は、札幌において高校と大学を一体化した新キャンパスを建設し、さらに地域に開かれたCENTER OF COMMUNITYの確立を目指しているが、それが新しく風景と呼ぶにふさわしいほどに地域になじんだものとなることがわれわれの切なる願いです。

女子大学看護学部の現代的意義

大関 武彦 ● 共立女子大学看護学部長

一 はじめに

共立女子大学の看護学部は、平成十六（二〇〇四）年度に開設された三年制の共立女子短期大学看護学科から、四年制の学部として平成二十五（二〇一三）年度から新たなスタートを切った。近年、最新の技術的進歩による医療の高度化、急速な少子高齢化、医療に対する国民のニーズの多様化、在宅医療の需要の増加、さらには医療安全の確保やチーム医療の推進などにより、看護師に求められる能力はますます高度化している。こうした、社会や保健・医療を取り巻く環境変化に的確に対応することができる質の高い人材を養成することが求められており、それらの社会的要請に応えるため、共立女子大学に看護学部が設置された。

設置業務はおおむね順調に進行し、認可に至った。文部科学省への申請では、教養教育・専門教養についてのカリキュラム、教員、施設・設備の充実、そして本学の特色を示し、

計画に従った開設が認められた。その結果、多くのレベルの高い志願者が受験したが、これらの学生に対し十分な教育成果を上げるべく、全教員は新たに責任の重大さを感じている。本稿では共立女子大学の歴史と特色、そして看護学部がどのような方向性を志向しているかを概説することとしたい。

二 共立女子大学の沿革と特色

共立女子大学の歴史を基盤とし、今日の看護学部が設立されており、まずその沿革を簡単に記すこととする。

本学は明治十九（一八八六）年に設立され、平成二十八（二〇一六）年には一三〇年の節目の年を迎える。わが国の女子に対する高等教育施設としては長い歴史を有している。建学の精神は、教養を身につけ、また専門的知識と高度の技能を習得させ、女性の自主性と社会的自立を育成することであった。東京の本郷東竹町の渡辺辰五郎の私塾からスタートし、本郷、神田などを経て、明治二十（一八八七）年には、現在



の神田一ツ橋に校地を定め、教育の規模拡大、充実が図られた。その創立には、宮川保全、鳩山春子（鳩山一郎の母）、永井久一郎（永井荷風の父）、服部一三、手島精一（東京職工学校「現在の東京工業大学」校長）、矢野二郎（東京高等商業学校「現在の「一橋大学」校長」をはじめとする三四名が携わったことが「共立」の校名の由来となっている。

校舎のある一ツ橋・神保町地区は、日本の中心とも言える皇居から至近距離の場所に位置し、多くの書店や出版社が集まるわが国有数の文化的背景を有する街であり、特に書籍・雑誌などの活字文化を担ってきた地域と言える。江戸末期にさかのばれば、この辺りには西洋文化の翻訳・研究などを行なった「蕃書調所」が置かれ、新たな欧米文明を取り入れる窓口の一つであった。明治になると、現在の東京大学、一橋大学、東京外国語大学の発祥の地となり、時代が大きく変わる中、共立女子大学辺りにその香りが残っているとの声も聞かれる。大学の附属施設である共立講堂は、入学や卒業時の式典などの学内行事のみならず、各種の文化的イベントの開催場所として広く知られるところである。

現在の共立女子大学の各学部における教育・研究にも、このような歴史的・地理的要因が、意識するか否かはさておき、知らぬ間に色濃く影響している。大学が建学の精神として、現代社会における主要テーマとなっている女性の社会的な自立を挙げてきたことは、今日の社会進出の拠点としての役割

にもつながっている。看護学部はまさに、本学の建学の精神を現代において具現化していると言えるよう。

三 現代の大学における看護教育

今日のわが国のみならず、世界的にも医療や保健は多くの国々で重要な課題となっている。このために各種の医療・保健施設や関連する設備の充実を図ることは基本的な要件ではあるが、何よりもそれを担う専門職の育成がその根幹をなすものであり、大学での看護教育はそのためには必須のものである。

看護教育の方向性を提示した「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」（平成二十三年三月十一日）においては、学士課程における看護系人材養成は、人の支援に関わる看護系人材の養成において重要な意味をもつ充実した教養教育の実施と、理論的背景をもち、分析的・批判的見地から取り組まれる専門教育としての職業教育の実施により達成されるという特徴をもつとされている。そのうえで、今後の学士課程における看護系人材養成においては、専門職として能力開発に努め、長い職業生活においてもあらゆる場で、あらゆる健康レベルの利用者のニーズに対応し、保健・医療・福祉等に貢献していくことのできる応用力のある国際性豊かな人材養成を目指すとされている。

看護職の仕事は多岐にわたり、多くの領域での実質的な業務を担当している。しかしながら、旧来は大学の看護教育が限定的であったため、現代の医療の高度化、多面化と量的拡大に対処するためには十分ではなかった面もあった。文部科学省や厚生労働省、自治体などの行政サイド、そして教育関係者も看護教育の重要性を認識し、看護教育の充実を目指し大学の看護学部を推進するようになった。平成二十五年度に新たに開設された大学看護学部は、共立女子大学をはじめ七校を数えた。当然のことながら、この根底には医療現場から看護の必要性が叫ばれていることを忘れてはならず、何よりも多くの国民からの要望が最も基本的なパワーになっていると言えよう。

四 本学部の人材養成と教養教育

本学部においては、人材養成目的を達成するために、教育目標として次のような人材養成像を掲げる。これらの項目は、人格形成から看護の知識・技能の習得のみならず、将来的な社会貢献や自己研鑽までも視野に入れたものとなっている。すなわちこれを以下の七項目として提示する。

- (1) 社会に広く貢献する自立した女性として必要な、幅広く深い教養、総合的な判断力及び誠実で豊かな人間性を涵養する。

- (2) 人間の尊厳と権利を擁護する能力、高い倫理観を基盤としたヒューマンケア態度を育成する。

- (3) 科学的根拠に基づき、看護を計画的かつ安全に実践する能力を育成する。

- (4) 個人や家族の健康レベルや生活、地域の特性と健康課題を査定し、より質の高い看護を実践できる能力を育成する。

- (5) ケア対象のあらゆる発達段階、健康状態、心理状態に対応して援助できる能力を育成する。

- (6) 保健医療福祉チームと関係性を密にし、連携・協働して社会的ニーズや状況に対応した看護を提供できる能力を育成する。

- (7) 看護専門職としての役割を果たし、社会に貢献していくために、将来にわたり自己研鑽を継続し、看護実践のための専門性を発展させる能力を育成する。

これらの人材養成像にも明確に示されているごとく、看護の教育においては、医療専門職としての知識と技能を習得することは言うまでもないが、その基本には優れた人間性や、現代における看護の意義や看護師の責務を理解することが求められる。これまでときに、技能を身につければ人間性の部分は軽視されたり、反対に技術や知識はともかく温かく接することのみが重視されたりする場合も少なくなかったと言えなくはないであろうか。当然のことながら、看護は人が人に

看護学部校舎（3号館）



対して行う行為であり、技術・知識と心・人間性の両面が充実していることが何よりも要求されることは論を待たない。一人の女性として、そして人間として、人格形成のための教養教育の充実とは本質的な意味を有している。わが国の大学における看護教育は、大学医学部や看護系大学が主体となつて行われてきた。共立女子大学においては複数の学部を有する女子大学の中に設置された看護学部であることがその特色であると言え、また注目される点でもある。

本学では、文学、語学、法政経や歴史、演劇、造形などの教育・研究が長い年月をかけて培われてきた。また服飾、食物栄養、建築、デザイン、児童教育、メディアなどについての多彩なスタッフも充実している。このため、全学共通科目として多くの教養科目が選択できるようなラインナップが形成

されている。医療系の大学と比較し、大学全体を対象とした多くの充実した教員と設備による教養教育はUniversityの名称にふさわしい体制であると言えるであろう。

五 新設された看護学部と教育体制

カリキュラムの特徴としては、伝統ある女子大学ならではの、全国の看護教育施設の中でも屈指と言える多彩な教養教育の科目が配置されていることは、前述のとおりである。専門教育としては看護領域別の講義に加え、演習では各種の新型のマネキンを用いたシミュレーション演習、模擬患者による実技テスト（OSCE：Obstructive structured clinical examination 客観的臨床能力試験）を実習開始前後に配置するなど、最新の教育システムを率先して導入した。卒業後の進路や研究の方向性を視野に入れた二五科目の展開科目も新学部の特徴であり、これらにより看護教育に特化した効果的で魅力的な教育が可能となったと言える。

本学部の教育における各個の科目群の特色を簡単に述べると、以下のようにまとめられる。

- (1) 教養教育科目——家政学部、文芸学部、国際学部、看護学部、生活科学科（短期大学）、文科（短期大学）による全学的な教育体制で、基本スキルユニット・教養ユニットの科目を学修する。

- (2) 専門基礎科目——看護系科目に加え、基礎医学系科目、臨床医学系科目、社会医学系科目について、コミュニケーション、心理、倫理、統計などを含め学修する。
- (3) 専門基幹科目——看護の各領域について、概論、援助論、援助演習などを学修する。
- (4) OSCE I——領域別実習を行うのに十分な知識や技能が獲得されているかを、模擬患者などを用いてテストする。
- (5) 領域別実習——看護の各領域別に、三井記念病院をはじめとする、質の高い多様な施設で、多くの指導者と共に学修する。
- (6) OSCE II——領域別実習の到達目標が獲得されているかを、全部の実習が終了した段階でOSCEの形式でチェックする。
- (7) 看護学総合実習——全部の領域別実習が終了した段階で、それらを統合し総合的な実習を実施する。
- (8) 専門展開科目——看護教育に必要な必ず身につけるべき科目を学修したあと、より発展した段階を目指し、より高度・専門的な学修を行い、卒業後の看護実践、専門施設での医療、看護についての教育・研究を視野に入れ、より進んだ学修を行うべく設定する。
- (9) 看護研究——それまでに学んだ知識を基礎とし、文献などの検索法を学び、自らが問題解決する能力を習得する。

基礎看護実習から看護学総合実習までの各種の実習は、高レベルの都内の病院で実施される。多数の実習病院を経験することは、看護の多様性を理解することにつながる。また、多くの施設及び指導者に接し、就職に関する示唆を得ることにより、一〇〇%の就職率をより中身の濃いものにすることを目指している。

六 履修指導の実際と特色

教育のカリキュラムを効果的に運用し成果を上げるためには、履修指導などの綿密な準備体制が必要となる。本学部では設置の趣旨及び人材養成目的を達成するために、以下のよう履修指導を行う。

(1) ガイドンスの実施

一年次については、四月初旬にガイドンスを実施し、教育目的、教育課程、卒業要件及び授業実施計画などを説明する。二年次から四年次については、三月下旬にガイドンスを実施し、履修指導を行う。

(2) シラバスの作成

全授業科目についてシラバスを作成し、授業科目の目標、授業概要、各回の授業内容、事前・事後の学習指導、使用する教科書、成績評価基準などを明示し、学生が教育目標を理解し、主体的に学修に取り組むことができるようにする。

(3) 履修モデルの提示・指導

学生の卒業後の進路や、卒業後看護職としての専門性をどのように発展させていくかを踏まえて、さまざまな領域・対象において専門知識・技術を用いて高度先進医療に対応できる看護実践能力の充実を目指す「臨床実践能力発展」、地域社会の特性やニーズを的確に把握し、地域・社会の求める看護に対応できる能力の充実を目指す「地域・社会連携」、看護専門職として専門的な能力を発展させ、チーム医療の中でリーダーシップを発揮し、看護をマネジメントできる能力の充実を目指す「看護研鑽能力発展」の三つの能力養成を想定し、これらに対応した履修モデルを提示し、履修指導を行う。

(4) 実習要項の提示

領域ごとに「臨地実習要項」を作成し、各実習の目的、具体的な教育目標、実習内容などを学生に明示し、学生がこれらを十分理解したうえで実習に臨むことができるよう指導を行う。なお、臨地実習科目を履修するための前提となる授業科目については臨地実習要項において提示し、臨地実習前に必要な知識などを確実に身につけることができるよう指導する。

(5) 履修登録単位の上限設定

単位制度の実質化の趣旨を踏まえ、学生が十分な学修を行い、必要な知識・技術などを身につけ、学修成果を確実に得ることができるよう、履修科目の年間登録上限を四四単位と定める。

(6) GPA制度の導入

教育の質の保証に関する教育改革の一環として、成績評価にGPA制度を導入する。GPA制度の導入により、客観的な成績評価を行い、適切な履修指導、履修計画の策定に活用する。

七 新たな共立女子大学看護学部とその未来

本学のキャンパスは東京の、そして日本の中心に位置し、その文化的な背景に交通の利便性を備えた最高の立地にあることは、広く知られているとおりである。現在、最新の校舎ビルが建設中であり、開学一三〇年目を記念するころには、より一層充実した教育施設が完成する予定である。

これからは、これまでの高い評価・期待を、いかに現実のものにしていくかが問われている。ぜひわが国の看護教育施設の中でも優れたレベルで、キラリと光る、そして本学の伝統にふさわしい看護学部にて育ていきたいと考えている。

文化的地域における長い歴史と伝統、教養教育に裏打ちされた人格形成、最新の施設と教育体制による専門職としての看護教育などは、本学部の特色であることは述べてきた。地域的にも、時代的にも国際化は重要なテーマであり、二〇二〇年そしてその後を視野に入れたより高度の教育・研究体制への発展なども含め、今後大きく展開することが期待される。

杉浦 勢之●青山学院大学総合文化政策学部長・教授

至誠 Sincerity 質直 Simplicity

一 世界はわが教区

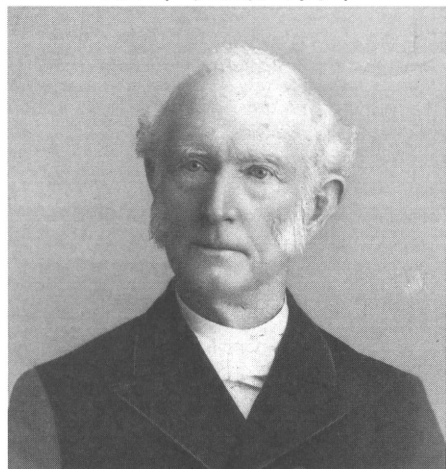
青山学院は、米国のメソジスト監督教会が世界伝道の一環として、近代化の波頭にあった明治初期の日本に送り出した三名の宣教師が創立した三つの学校を源流としている。

メソジズムとは、一八世紀イギリスの信仰復興運動の指導者であったジョン・ウエスレーの宗教運動であり、一七世紀の「実践的霊性」を重視する神学を継承した活動であった。ウエスレーの信仰運動はイギリスの中下層、とりわけ産業近代化の中で貧困にあえぐ労働者階級に広く浸透し、このような階級・階層の人間形成を支えることになった。このためメソジスト運動は、宗教活動であるとともに、教育活動としての性格を濃厚にもつこととなり、現在でも広く世界にメソジスト系の学校

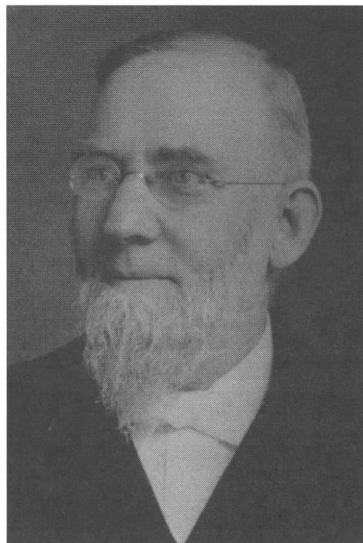
が展開している。米国メソジスト監督教会は、明治維新によって近代化を開始した日本への布教についてもその必要を認め、次々に宣教師を送り出していくことになった。

最初に日本に赴任したのは、日本への布教の重要性をいち早く見抜いた監督教会中国派遣宣教師のロバート・サムエル・マクレイで

ロバート・サムエル・マクレイ



ジュリアス・ソーパー



あった。マクレイは一八七二年ニューヨークで開かれた伝道局会議に出席し、『世界はわが教区なり』とのジョン・ウェスレーの言葉のごとく、わが伝道局は新しく開かれた伝道の分野に鋤を入れるべきである。そこには多くの困難がある。……それらを克服して福音を伝え、キリストの教会を建設することによって、神の栄光が世界に輝くのである」と発言。この熱意が認められ、メソジスト監督教会日本宣教総理となつて、一八七三年六月日本に着任した。

この二カ月後に日本に赴任したのがジュリアス・ソーパーである。ソーパーは、ジョージタウン大学で修士号取得後、私立学校の校長を務めていたが、バルチモア年会で教職試験に任ぜられるとともに日本派遣宣教師にも任命され、東京連合区を担当することとなった。

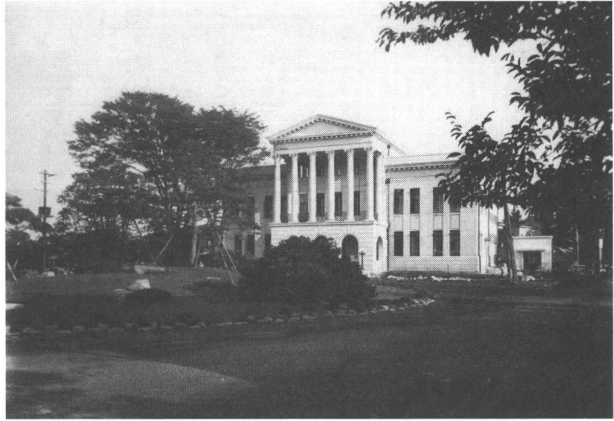
ドーラ・スクーンメーカー



さらに、青山学院にとって重要な三人目の宣教師はドーラ・スクーンメーカーである。スクーンメーカーは、小学校及び中学校で教鞭を執る教師であったが、「暗き場所に小さな光」をともすという伝道の志やみがたく、自ら名乗り出てメソジスト監督教会初めての日本派遣女性宣教師として一八七四年単身日本に赴任した。弱冠二三歳の若さであった。

二 芽吹く三つのまかれた種

メソジスト運動は、布教活動とともに教育活動を大事にする。この三名の宣教師がそれぞれ設立した学校が、青山学院の三つの源流となった。その中で最も早く設立されたのは、一八七四年スクーンメーカーが、ソーパーとソーパーの洗礼



の決定に従い、一九一八年に設立された東京女子大学に英文専門科が合流することとなり、関東大震災後の一九二七年に青山学院と合同した。

次に一八七八年ソーパーが、やはり津田仙などの助力を得て、築地に耕教学舎を設立した。同校は英語学、数学、漢学を教授することを目的として掲げていたが、一八八一年銀座に移転し東京英学校と改称、その後麻布に移転している。

を受けた津田仙の助力により麻布に開校した女子小学校であった。同校は翌年救世学校と名を変え、さらに築地に移転して海岸女学校と改称した。一八八八年上級生を東京英和女学校に移行させ、一八九五年に青山女学院と改称する。青山女学院はエディンバラ宣教会議

そして最後に設立を見たのが、バルチモア年会のジョン・F・ガウチャーの篤志により、一八七九年マクレイが横浜に設立した美會神学校である。同校は、その名のとおり神学科を核としたが、同時に漢学及び英学を教える普通学科を併設していた。一八八二年メソジスト監督教会の日本宣教部が東京に移転することになったため、マクレイは美會神学校の東京移転を決意し、再度ガウチャーの援助を受けることになった。この東京移転を機に、美會神学校は東京英学校と合同することを決定する。一八八三年青山の地に開校された東京英和学校、のちの青山学院である。

このように青山学院に合流する三つの源流は、一八七〇年代半ばから一八八〇年代半ばまでの一〇年の間に、メソジストの学校として、女子教育、英語教育、神学教育を目的に相次いで設立されたものであった。それは、一八七二年わが国最初の近代的教育法制である「学制」から始まり、一八七九年の「教育令」、さらに翌年の「改正教育令」と近代的教育法制が順次整備され始める過程とほぼ重なる。一八七七年にはその頂点として東京大学が開校されている。青山学院の歴史をその源流にまでさかのぼれば、制度的に整備された日本の学校としてではなく、メソジストのグローバルな伝道及び教育活動の一環として、日本における近代学校制度の形成と並行し、あるいは時に先んじ、「世界はわが教区」というウ

エスレーの言葉に鼓舞されたマクレイの強い意志によりその
出版を果たしたのだと言えよう。

III Manx Waa'joo

東京英和学校の設立を支援したのはバルチモア年会のガウ
チャーであったが、一八八二年一月に示された彼の構想はメ
ソジスト派による大学の設立であり、英語校名は「Anglo-
Japanese University」とすることが考えられていた。その後
設立された東京英和学校は英語では、Anglo-Japanese
Collegeと表記することとなった。なぜこのように構想が縮
小されたかは不明であるが、おそらく日本宣教部の実情を踏
まえてのことであったと推測される。しかしガウチャーは、
その後もメソジスト派あるいはキリスト教主義によるユニバ
ーシティ構想を維持し続け、青山学院の歴史に大きな影響を
与えることになった。とりあえず設立された東京英和学校は、
予科と神学科、普通科によって構成され、その後それぞれ予
備学部、神学部、普通学部名称を変更し、高等普通学部四
年科卒業生で、所定の成績を収めた者については、アメリカ
のメソジスト系リベラル・アーツ・カレッジであるアルビオ
ン大学のバチエラー・オブ・アーツの称号が与えられており、
一八九〇年代にはほぼアメリカのリベラル・アーツ・カレッ

ジ相当の体制を整えていた。

しかしこの間に、日本の教育制度は大きく転換していった。
当初英仏のリベラルな教育をモデルとしていた日本の教育行
政は、一八八〇年「改正教育令」以降復古的な色彩を帯びる
ようになり、なかならずく高等教育政策においては、官立中心
のプロイセン・ドイツ型研究総合大学へと舵が切られた。高
等教育の面から見れば、明治維新は、勃興するドイツの研究
総合大学が英米のリベラル・アーツ・カレッジを圧倒し、宣
教師たちの本国である北米においても研究総合大学への改革
が進行するという、大西洋をまたぐ大学間のグローバル競争
のただ中での出来事であった。

一八八六年「帝国大学令」発布で、東京大学が工部大学校
と合併し帝国大学となったことにより、日本の高等教育は官
学主流の研究総合大学の道を進むことが決定的となり、キリ
スト教主義に基づく高等教育を構築しつつあったミッション
スクールは、当時のリベラル・アーツ型高等教育の国際標準
をクリアしながら、日本の大学として発展していく道を閉ざ
されることになったのである。ときあたかも明治政府による
極端な欧化政策への反発が高まり、国粹主義の揺り戻しが始
まっていたころのことでもあり、東京英和学校総理となった
マクレイは将来を憂い、東京英和学校の校主に人を得たいと
大いに頭を悩ました。その白羽の矢が立てられたのが、青山

学院日本人最初の院長となる本多庸一その人であった。

青山学院では、スクールモットーである「地の塩、世の光」とともに、本多が東京英和学校総理就任の直前に書簡で述べた「希くは神の恵により我輩の学校より所謂Manを出さしめよ。Manの資質多くあるべし」と雖もSincerity、Simplicity最も大切なべし」という言葉が、青山学院の人間教育を標榜するものとして語られる。それでは本多庸一とはどのような人物だったのであろうか。

四 青山の学風は本多精神にあり

本多庸一は一八四八年津輕藩の大本の家に生まれた。幼くして聡明、学問に秀で、一六歳にして藩校である稽古館の司

本多庸一



監に任じられている。前途を嘱望されていた本多の人生を大きく変えたのが戊辰戦争であった。津輕藩は当初奥羽列藩同盟への参加を決め、弱冠一九歳であった本多ら三名の藩士が庄内藩に派遣されたものの、盟約に成功し帰藩してみれば藩論は一変、津輕藩は官軍側に立つて庄内藩と戦うことを決していた。庄内藩との信義に違ふことはできないとして、本多らは自ら死罪か切腹を願ひ出たが認められず、死場を求め、脱藩して庄内藩とともに転戦した。戦争終結後、脱藩の罪による処罰を申し出たもののこれも認められず、本多庸一はのちにこのときの気持ちを「我々は敗者側となり、私は失望落胆し、名譽を失いました (disgraced)」と回顧している。

このような過酷な内戦体験から本多庸一を立ち直らせたのが、横浜のバラ塾での聖書の学びと信仰であった。バラ塾での学びを通じ、本多はしだいに「敗者としての目」を脱し、「世界という目」で日本近代の建設過程を見るようになっていった。藩校の稽古館を東奥義塾として再建、その塾頭となり、さらに自由民権運動の結社である共同会を設立、青森県会議員に当選、県会議長を務めている。内村鑑三は本多を「日本国に曾て在りし所の最良の県会議長」「ピースメーカー」と評している。信仰に目覚めたかつての激越な青年藩士は、大局をとらえながら要所を押さえ、対立を調和させながら必ずこ

とをなすというのちに見られた姿勢をこの時期に育んだもの

と思われる。県会議長を辞したあと、本多庸一は教派を分かつとはいえ、バラ塾で共に学んだ盟友で東北学院の校租の一人、押川方義のいる仙台で宣教活動を行っており、お互いに友誼を尽くし、今日までその伝統は両学院で守られてきている。こういうところにも、信義に厚く小異にこだわらない本多庸一の後半生の性格が見てとれよう。

一八八九年本多は東京英和学校校主に着任、翌一八九〇年には校長・院長に就任した。「本多来たる」との報は、東京英和学校の学生に大きな感銘を与えた。このときのことを、学生として本多庸一を迎え、のちに青山学院の教員として本多と共に働き、『本多庸一伝』を叙した岡田哲蔵はその著書の中で、「かねて聞きし人物を我等は目を見張つて見た。……論旨は伝道は人物を要す。然して我等先づ自ら人物とならざるべからずといふにある。同感共鳴はいふ迄もない。この重壮なる人物の存在を我等は如何に心強く思ひしことぞ」と感激をもって語っている。その声、風格、態度、これらのすべてが固唾をのんで待ち受けていた若い学生たちを圧倒したのである。このとき彼らの中で、語られていることと、それを語る人とはびつたりと一致した。

その後、「青山の学風は本多精神にあり」ということが学院関係者の間でしきりに言われるようになる。それは本多の言葉では語り尽くせない人格力を表現するものであった。ア

メリカの古典的なカレッジにおいては、教授される学術内容もさることながら、カレッジとしての最後のよりどころは、校長の人格の及ぼす教育力に求められるとされる。それこそが人格教育ないし人間教育としてのリベラル・アーツの真髄であろう。ミッシェンスクール逆風の中、東京英和学校に欠かすことができなかったものの、それを本多庸一がこの学校にもたらした。本多院長のもと、東京英和学校は青山学院と名称を変更し、キリスト教信仰に基づく国際的な日本の学校としての道を鮮明に打ち出していくことになったのである。

キリスト教に対する批判が強まった「教育勅語」問題や、礼拝等の宗教教育を廃止しなければ上級学校への進学及び徴兵免除の特権を失うという「訓令一二号」の発令に、本多は「教育勅語」と『聖書』の言葉を対照させ、東西を超えた道徳価値の普遍性を主張し、さらに「訓令一二号」によって失われた特権についても粘り強く回復している。それは戊辰戦争における過酷な体験によって「敗者」となり、信仰によって再生し、その支えによって自己の道を切り拓いてきた本多庸一にしかできなかった戦いであつたと言えよう。ミッシェンとこの国の若者の育成を両立させ、青山の地において未来の種をまくという本多の精神は、一九一〇年エディンバラ宣教会議でプロテスタント超教派の男子系キリスト教主義統一大学を青山に置く構想が打ち出されて青山学院独自の大学昇

万代順四郎



格構想が中断されたときにも、一九四四年戦時体制のもと、宣教師が帰国を命じられ、廃校寸前に迫り込まれたときにも、絶えることなく継承された。

五 地の塩、世の光

ところで本多庸一の教育の真骨頂は、リベラル・アーツにだけあったのではない。若くして厳しい試練を受けた本多は、つねに実学を通じ日本の未来を担う若者たちを育成することを意識していた。一八九二年青山学院は、新たに実業部を設けている。これは校内の古い寄宿舎を作業場として利用することにより、学生を仕事に従事させ、技術を修得させるとともに、その報酬によって正規の学部の手当を修了させること

を目的としたものであった。アメリカ流のリベラル・アーツ教育を旨としつつ、経済的に就学困難な家庭の師弟に教育機会を与え、実学を通して日本の実業界のリーダーとなりうる倫理的人材を送り出そうというのがその趣旨であった。本多は、苦学生のため学内の仕事を世話し、就学を支援することを目的に青山学生労働会も組織している。同会では論集の編集実務、図書館の整理、牛乳の配達、食堂の配膳など、学内のありとあらゆるものが仕事として学生に提供された。さらに本多は「苦学生は本院生徒に限るまじ」とし、他校生にも会員を広げていったのである。

このような本多庸一の教育の中から、青山学院において苦学生中の苦学生と呼ばれた学生が、戦時の最も困難な時期に三井銀行（＝帝国銀行）の総帥として日本の金融界を率い、戦後は世界的な企業となるソニーをその草創期に金融、経営両面から支える人物が育った。万代順四郎である。

万代は戦時期に金融界のトップであったことが災いし、戦後公職追放となった。それ以後、病気がちであった妻のために所有していた津久井の別荘を田畑につくり替え、夫婦で『聖書』を読み、自給自足の生活を通して。その彼が公職追放解除後、唯一公職として引き受けたのは、戦前理事長であった青山学院の理事職と東京通信工業、のちのソニーの相談役、会長職だけであった。東京通信工業の相談役は頼ま

脈々と受け継がれているのである。

六 グローバル化時代の私立大学とその使命

れてのものであったが、井深大、盛田昭夫という二人の理系の若者との出会いが、万代の中に青山学院大学に理工学部をつくり、日本の再建に貢献したいという思いをふくらませ、その尽力によって青山学院大学はキリスト教信仰に基づく研究総合大学への道を切り拓いていくことになった。

万代は、青山学院の財務担当理事として戦後の青山学院、青山学院大学を支えたが、その生活は質素を極め、学院を訪れるときは宿直室に泊まり、食事はもっぱら「ざるそば」、仕事以外では旅行にも出かけなかったという。その質素な生活ぶりを周りはいぶかったが、一九五九年二月万代が亡くなった送別の夕べに、学院関係者の多くは、彼が一〇〇名の苦学生のための奨学基金をつくることを念願とし、それが成就した晩には晴れて妻と旅行することを楽しみにしていたこと、その目標を目前に亡くなったということを知らされた。これが今日に至る青山学院万代基金の始まりである。万代は所有するソニー株すべても学院に寄贈している。

そのソニーの発行した『ソニー 自叙伝』は、万代の語った「営利会社であるからあくまで利益を挙げなければならぬが、いつでも世の中の役に立つことを考えてほしい」という言葉を挙げ、「ソニーはその遺志を受け継いだ」と結んでいる。「Manを出さしめよ」という本多庸一の祈りは、このようにして世代を超え、学校という枠をも超え、今日にまで

大学という教育制度は長い伝統を有している。近代の高等教育によって訓育されたものが歴史の中に大学像を追い求めていくと、ときに違和感を覚え、ときに認識のギャップを感じることもある。大学が近代という時代をはるかに超える歴史を有し、近代化という世界史の大きな変革を超え、絶えず自己変革を遂げてきたということがその理由であろう。

現在、世界の高等教育は、おおむね大学という制度を中心に営まれているが、その発祥の地であるヨーロッパの内在的展開を除き、それ以外の世界の大学は近代化の進展とともに、伝統的に存在していた高等教育の場が再編されたものであり、前近代と近代との「時間的閾」、ヨーロッパとそれ以外の地域との「空間的閾」を超えることによって現代の姿をつくりあげてきた。このような経緯を通じ、世界の大学はさまざまな個性をもつことになったのである。グローバル化が進む現代においても、そのことは基本的に変わらないであろう。それぞれの原点となる個性を通じてこそ、知の普遍性はその地に根ざし、実り豊かな収穫をもたらす。青山学院一四〇年の歴史において、それはつねに「人」であった。

重要文化財の学び舎で誓う、永遠の愛

片瀬 慶子 ●(株)同志社エンタープライズ事業部長

●同志社初の結婚式は「襄」と「八重」

同志社英学校を開校した翌年の一八七六年一月三日、新島襄と八重は、まだ古い因習が強く残る京都で初のキリスト教（プロテスタント）の結婚式を挙げた。一世紀半近い時を超え、同志社大学では重要文化財である「同志社クラーク記念館」「同志社礼拝堂」を卒業生に開放、創立者の遺志と伝統を受け継ぐように、キリスト教の礼拝として結婚式を執り行っている。

●キリスト教主義の大学における結婚式とは

同志社での結婚式について、大学キリスト教文化センター所長・原誠神学部教授は、二〇〇五年四月のJR福知山線脱線事故以降、同志社の学生を含む犠牲者の追悼礼拝を毎年執り行っていることを例に挙げ、「キリスト教の大学は、同志社に限らず、大学に在籍する間のみの関係で単位をとって卒業証書をもたらったら基本的に縁切りだという発想はもたない。

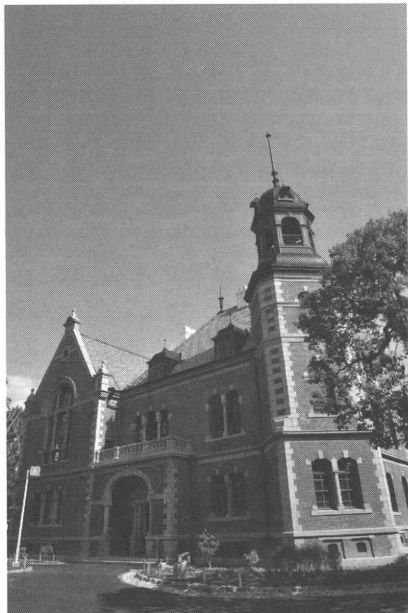
生涯を通じ、また人生が終わったのちも関わっている。このことを学生には誇りに思ってもらいたい。だから、人生の非常に重要な出来事である結婚式を卒業生が母校で挙げたいと思ってくれることは、われわれにとっても大変うれしいこと」と語っている。

現在、このような考え方を基本に、キリスト教文化センター所管のもと、事業会社である同志社エンタープライズが委託を受け結婚式の運営を行っている。

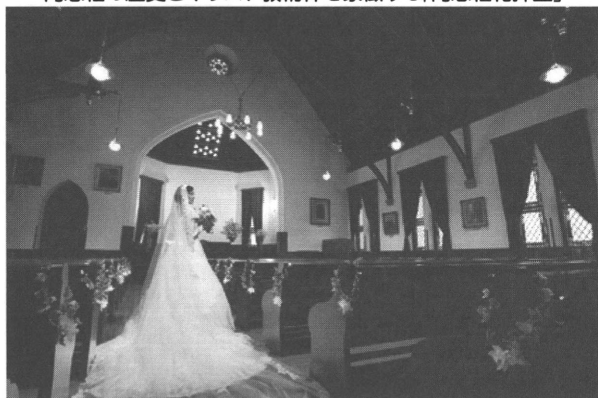
●会場は二つの重要文化財

そびえ立つ尖塔が印象的な「クラーク記念館」。一八九三年の創建以来、そのドイツ・ネオゴシック建築の重厚な煉瓦

修復を機に美しくよみがえった
「同志社クラーク記念館」



同志社の歴史とキリスト教精神を象徴する「同志社礼拝堂」



造りの建物は、キャンパスのシンボルとして学生たちに親しまれてきた。一九七九年、国の重要文化財に指定されたが、その後、老朽化が進み阪神・淡路大震災でも被害を受けたため、およそ五年の歳月をかけ大規模な修復工事を実施。二〇〇八年に復元し、ふたたび創建時の美しい姿によりがえった。この再生を機に結婚式の場として開放し、二〇〇九年一月十一日には、クラーク・チャペルでの第一号となる結婚式が行われた。

また、二〇一三年四月からは創建当時の姿によりがえった「同志社礼拝堂」での結婚式もスタート。一八八六年に建てられたこの礼拝堂は、プロテスタントの煉瓦造りチャペルとしては日本最古となる。同志社教育のために本格的なチャペルの建設を待ち望んでいた新島は、定礎式で「此礼拝堂ハ我同志社ノ基礎トナリ、又

タ精神トナル者ナレバナリ」と語り、その完成を大いに喜んだという。

思い出の学び舎であるとともに、重要文化財という建物のすばらしさや、神の前で結婚の誓いをすることに、意義や魅力を感じ結婚式を挙げることを決めた人も多い。結婚式を挙げた方の中には、親も同志社の卒業生で「子どもが生まれたら、三代そろってこの思い出の場所を訪れたい」と話す方もおられた。

●利用者の声から

「司式の牧師から意義深い式辞をいただきうれしかった。あらかじめ事前学習でキリストの教えを受けていたためよく理解できたが、本番で聞くとまたひとしお心にしみるものがあった」

「よくあるウェディング用に造られたチャペルと違い、司式の先生の言葉一つ一つに重みを感じた。オルガンの音も感動的だった」

このような利用者の声からも、同志社での結婚式では、建物の魅力とともに、「礼拝として」の式という本質部分が、同志社のキリスト教主義教育を受けた挙式者だけでなく参列者にとっても最も高い満足度につながっていることがうかがえる。運営を始めて五年、満足を重ねて、卒業生の口コミだけで広がった結婚式の件数は二八〇件を超えた。これからも、卒業したら終わりではない、同志社教育の一つの象徴として、卒業生の結婚式をサポートしていきたい。

母校のお社での挙式 格調高く、厳かに

中條 豊 ●國學院大学教学事務部教務課（教育開発推進機構） 主幹

日本の古き良き伝統を継承する神前結婚式は、東京のお伊勢さま、東京大神宮で創始されたと言われる。この神社に近い東京府飯田町（現・飯田橋）に、明治十五年、創立されたのが國學院大学の母体・皇典講究所である。大正十二年、同地が手狭となり、さらなる発展を期すために、渋谷氷川裏御料地（現・渋谷区東）に全面移転した。その折、財界人で貴族院議員でもあった皇典講究所理事の和田豊治氏が、国体を講明し、^{かんながら}惟神の大道を研修する学府でありながら、その象徴となる神殿の設けがないことを遺憾に感じ、その造営費を寄付。しかし、折しも関東大震災で校舎が被災したため、着工は見合わされた。

●大学の守り神、ご鎮座八三年

本学の守り神である神殿のご鎮座は和田理事の没後、昭和五年四月三十日となり、天照皇大御神を主神とし、天神地祇

渋谷キャンパスの正門脇に鎮座する神殿。
前庭には瀬戸内産の石を配し神奈備川が流れる



かんながわ

では神奈備川の清らかなせせらぎが聞かれる。この川の名は『万葉集』に詠まれた「かはづ鳴く神奈備川にかけ見えて今か咲くらむ山吹の花」（一四三五番）による。神殿では年間恒例祭祀に加え、毎月初めの月次祭、創立記念祭、入学式や卒業式には奉告祭が斎行されるほか、オープンキャンパスの際は、高校生の多くが合格を祈願し、詣でる姿を目にする。

八百万の神々が鎮祭され、翌五月一日に奉祝祭が斎行された。爾来八三年、この日を神殿鎮座記念日と定め、毎年、法人傘下の役教職員・学生有志が参列し、記念祭が斎行されている。

また、創立一二〇周年（平成十四年）を機に進められた渋谷キャンパス再開発事業では外構部分も整備され、神殿前庭

さらに、大変まれな例として、神前結婚式がある。

●挙式に小梅干しが登場——「子産め」の願い込め

人生の晴れの門出、華燭の典を母校の神社にて挙げた教職員・卒業生は、三期一二年学長を務めた吉川泰雄先生をはじめ、およそ一五組を数えるとのこと。私事で恐縮ながら、筆者もその一人である。数多くの見合いを重ねるも、ご縁に恵まれなかったわが身。



それだけに、喜びもひとしお。感謝の気持ちをご奉告するのは、母校で勤め先でもある本学の神殿においてほかにないとの気持ちが強かった。このわがままな願いを聞き入れ、夏期神職養成講習会の休講日である日曜日に、四名の同僚がご奉仕してくださった。真夏の挙式で暑さが懸念されたが、第六一回神宮式年遷宮の神宮旧殿舎撤

却古材を基に、平成七年に創建された拝殿のおかげで、真夏の日差しが和らげられた。

式の後半、斎主が「目の前にある小さな梅干しは、子産めとの願いを込めたものです」という内容のお話をされた。このご利益により、子宝に恵まれた。「神は細部に宿る」の言葉どおり、ダジャレにも似たこのこまやかさに、日本古来の精神、謙虚さと寛容性を感じてならない。

日取りの調整に始まり、ご神饌や控え室の手配など、窓口である神道研修事務課と連絡をこまめにとり準備を進めた。どの事柄が欠けても式は挙げられなかったと思う。大学と関係各位のご配慮ご協力があってこそなした式、豪華さはなくとも、手づくり感あふれる、國學院ならではの、格調高い、厳かな挙式として、ひとときわ思い出に刻まれた。たまたま当日、所用で神殿前を通り、この挙式を目撃した本学関係者も「今でもこの日のことを印象深く覚えていいる」と漏らす。

●披露宴も手づくり、卒業生の会館で

披露宴は涼しくなった十月に、大学に隣接する卒業生組織、一般財団法人國學院大學院友会の会館にて催した。ここでも同僚たちが準備を整え、和やかなお披露目の会となった。

挙式から、おかげさまで満一五年。毎朝夕に神殿前にて頭を下げているが、わが学び舎の守り神は、私ども夫婦の守り神としても温かく、ときに厳しくお見守りくださっている。

青春の思い出

松大キャンパスで結婚式を！

松山大学経営企画部経営企画課

二〇一三年十一月二十四日、松山大学創立九十周年の記念イベントとして、本学卒業生カップルによるメモリアルキャンパスウエディング(学内結婚式)を挙げた。当日は本学の大学祭「熟田津祭」が開かれており、大勢の学生から「おめでと」の声がかけられ、大学全体が祝福ムードに包まれた。

松山大学は、地元松山の産官学を挙げての熱い要望と、これに応えて巨額の浄財を提供した郷土出身の実業家新田長次郎によって、一九二三年に旧制松山高専商業学校として設立された。以来、松山経済専門学校、松山商科大学を経て、一九八九年に松山大学と改称し、現在は五学部六学科・四大学院研究科を擁する総合大学である。また二〇一四年四月には、大学院医療薬学研究科を開設する。教学理念である「真実」「実用」「忠実」の三つの「実」からなる「校訓『三実』」を継承しながら、二〇一三年、創立九十周年を迎えた。

●メモリアルキャンパスウエディングの経緯

二〇一二年三月、松山大学創立九十周年記念事業委員会に

おいて、「百周年を目指した九十周年事業」のコンセプトのもと、創立九十周年事業を自らつくりあげることで帰属意識を高めていこうと、教職員及び学生を対象にアイデアを募集した。応募総数四十二件のうち採択された三件の中の一つである「本学で永遠の愛を育むプロジェクト」を具体化させたものが、メモリアルキャンパスウエディングである。

学生時代から付き合っているカップルが卒業後に結婚する際、思い出深いキャンパスで、花嫁衣裳を身にまとい前撮りする場面を幾度となく見てきた。それは学生時代の思い出が詰まった本学への強い思い入れがあるからだろうとの発想から、九十周年を契機に百周年に向かって本学と共に末永く歩んでもらおうと、本学卒業生を対象に挙式から披露宴までを本学キャンパス内で実施し、結婚式にかかる費用も含め、本学がバックアップしようと考えた。そして、十組の公募の中から東京在住の本学卒業生カップルが選ばれた。

●結婚式まで

新郎新婦をはじめ、本学卒業生のウエディングプランナー、松山ビジネスカレッジ、松山大学生生活協同組合など学外機関の協力のもと、本学の学生サポーターも募り、関係者と連携しながら、思い出に残る結婚式にしようと打ち合わせを重ねた。新郎新婦の「今日までの感謝を伝えとともに、私たちが育った松山の良さを感じていただけるアットホームな結婚式にしたい」という希望に対し、手づくりの良さを生かし

熟田津祭参加者と一緒にバルーンリリース



た挙式」がプランニングされることとなった。松山ビジネスカレッジの学生たちにより、八月にはオーダーメイドのウェディングドレスの製作、十月からは挙式・披露宴会場の装飾、料理内容や招待状のデザインなどの準備が進められた。また、学生サポーターは「熟田津祭」当日の催しや文化系サークルによる挙式会場での合唱と演奏を企画した。

●結婚式当日

在学中にキャンパス内で同じ時間を過ごしたことの新しい新郎新婦にとって、今回初めてキャンパス内で同じ時間を過ごす日を迎えた。お二人を祝福するために訪れた約七十名の参列者列席のもと、人前結婚式が挙行された。

挙式は、ブーケ・ブートニアセレモニーから始まり、誓いの言葉、指輪の交換、誓いのキス、そして結婚証明書への署名のあと、本学の村上宏之理事長・学長による結婚成立宣言が行われた。挙式中は、新郎新婦の希望の曲「カノン（ヨハン・パッヘルベル）」と「美女と野獣」が本学吹奏楽部により演奏され、厳かな雰囲気

を醸し出していた。また、

本学グリークラブから松山大学校歌のプレゼントも行われた。挙式後、吹奏楽部によるファンファーレの中、新郎新婦と参列者により、小春日和の大きな向かいバルーンリリースが行われた。また学生サポーターが企画した「熟田津祭」のイベントにも参加した。その後、場所を移し、手づくりのアイテムに彩られた披露宴は、生い立ちビデオ上映やケーキ入刀など、アットホームな雰囲気の中挙行された。そして最後は、新郎新婦が坊っちゃん・マドンナの衣装に着替え、参列者を見送った。

●おわりに

本学の歴史に新たに刻まれたキャンパスウェディングが、薄れつつある学生の帰属意識を呼び起こす一助となることを願っている。なお、結婚証明書は「温山会館（同窓会館）」に飾られ、十年後、松山大学百周年の際に新郎新婦が取りに来ることとなっている。

情報誌に掲載

